

「第32回環境教育・環境学習ネットワーク会議」議事録

- 1 日 時：令和2年10月30日（金） 15:00～17:00
- 2 場 所：横須賀市職員厚生会館4階第3研修室
- 3 出席者：天白座長、桐谷副座長、内船構成員、遠藤雅弘構成員、
遠藤由美子構成員、加藤構成員、高橋構成員、奈良谷構成員、
野崎構成員、吉田構成員（計10名）
- 4 事務局：環境政策部環境企画課（松尾課長、鈴木係長、大場主任、相澤、天野）
- 5 傍聴者：なし
- 6 その他：新型コロナウイルス感染症の影響により、一部構成員がWebにより参加

◆ 会議の流れ

- 1 開会
横須賀市環境政策部長あいさつ
- 2 議題
(1) 環境教育・環境学習マスタープランの進行管理について
(2) 令和2年度「相互交流を生かした人材育成講座」について
(3) 「（仮称）横須賀市新環境基本計画」における「環境教育・環境学習」の考え方について
- 3 質疑等

◆ 議題1 環境教育・環境学習マスタープランの進行管理について

〔事務局からの説明〕

「環境教育・環境学習マスタープラン」は、上位計画である「横須賀市環境基本計画」の施策と併せて進行管理し、公表していくこととしている。現在、年次報告書として作成・公表に向けて作業を進めているので、その状況について説明する。

■天白座長

ただ今の事務局からの説明について、ご意見やご質問はあるか。

特に意見等がないようなので、今後お気づきのことがあれば年次報告書の発行予定である令和3年3月までの間に事務局までお願いしたい。

◆ 議題2 令和2年度「相互交流を生かした人材育成講座」について

〔事務局からの説明〕

令和2年度の当会議の事業のうち、「相互交流を生かした人材育成講座」については、第31回会議で施設見学（案）をお示ししたが、新型コロナウイルス感染症の影響により施設の見学自体が中止になっているため、こうした状況を踏まえて今年度の事業の実施についてご意見をいただきたい。

■天白座長

ただ今の事務局からの説明について、ご意見やご質問はあるか。

今年度の講座について、今後の施設の状況を見ながら実施していくのか、見学先を変更

するのか、今年度は取りやめるのか、ご意見をいただきたい。

今年度、コロナ禍の状況の中で、多数での視察は基本的に見合わせている状況だと承知しているが、博物館では受入れているのか。内船構成員いかがか。

■内船構成員

博物館を見学していただくことは特に問題ないので、今回の人材育成講座に関わるようなテーマをいただければ何か検討することができると思っている。

また、来年1月に博物館では文化会館を会場に「みんなの理科フェスティバル」という小学生から大人の自由研究まで幅広く理科の繋がりで発表会を開くイベントの予定があるので、繋がりやテーマを持てれば対応ができる。

今回、予定していた「エコミル」の見学だが、タイミングが大事な施設である。

稼働したばかりで見学会を行う予定がコロナ禍で中止せざるを得なかったが、見学が再開されるならば「エコミル」を見学することがタイミング的に良いと思う。

見学方法については、今回のこの会議のような遠隔を使った見学会というのは技術的にできないのか。

■事務局（鈴木係長）

企業の工場によってはオンライン工場見学のメニューがあるが、それが環境のメニューなのか確認する必要がある。

事務局としては、環境のスキルアップに資するものが良いと考えているが、ビール工場でビール造りだけをオンラインで見ても仕方ないことなので、ビール工場で環境の取り組みを行っているということであれば検討できるかと思う。

例えば、川崎エコタウンや東京都エコタウンがあり、通常は通年公開しているので見学できるが、コロナ禍により見学中止となっていて再開の見込みもたっていない状況である。

オンラインなら全国津々浦々を見学できるかもしれないので、オンラインで、かつ、環境の取り組みが行われている施設を探してみることはできるかと思う。

神奈川県環境科学センター（平塚市）は、昨年11月以降に1か月～1か月半くらいの期間限定でのガイドツアーを行っていた。

マイクロプラスチックを勉強できる取り組みもあったようなので、その時のプログラムを見学したいと相談してみるなど情報収集をしてみたい。

今年度の人材育成講座を実施していく方向であれば、事務局で来年1月までの間に何かできるか探していきたい。

■天白座長

内船構成員のご意見にもあったように、「エコミル」が稼働したことが1つのキーワードになると思う。

南処理工場からごみ処理施設が移ったことで、剪定枝、草の取り扱いの変更があった。

剪定枝はバイオマスエナジーへ、草は長坂の詰替保管施設へ行き、また、植物系の廃棄物は再利用する方向であり、そのような施設は基本的に屋外だと思うので、「エコミル」とは違う見学施設ではないかと想像している。その辺りの関心がある方はいらっしゃるか。

今年度はコロナ禍であるので来年度に向けて人材育成講座を考えることでも良いし、今年度中に見学できる施設を探して開催したいとのことであれば、事務局に引き続きお願い

したいがいかがか。

■事務局（松尾課長）

基本的には、今年度の視察先は「エコミル」のままとし、今後「エコミル」の見学が再開されるか状況を見ながら決定してはどうか。

見学ができない状況が続くようであれば、また来年度の見学先候補とし、来年1月ぐらゐまでを目途に今年度の見学が可能かどうか判断させていただくことでいかがか。

■天白座長

では、そのように進めていただきたい。

◆議題3 「（仮称）横須賀市新環境基本計画」における「環境教育・環境学習」の考え方について

〔事務局からの説明〕

「（仮称）横須賀市新環境基本計画」（骨子案）における「環境教育・環境学習」の取り扱いについて、現行「環境教育・環境学習マスタープラン」は新計画へ統合し、新計画での基本方針の一つとして新たに「環境教育・環境学習」を位置付けることや新計画における「施策の方向」についてご意見等をいただき、今後の計画策定の参考にしていきたい。

■天白座長

私は環境審議会委員なので、第68回環境審議会に出席し、ただ今事務局から説明のあった内容について環境審議会で議論が行われた。

環境審議会で出た主な意見としては、施策の柱の部分までは話が及ばなかったが、基本目標については、環境教育・環境学習に関係する意見があった。

基本目標5に「環境教育・環境学習の場を確保し、地球環境、地域環境にやさしい人づくりを進めるまち」とあるが、「まちが人づくりをするのではなく、人がまちをつくる」との意見があったと記憶をしている。

新計画はまだ骨子案の段階であるため、忌憚のないご意見をお願いしたい。

それでは、ただ今の事務局からの説明について、ご意見やご質問等はあるか。

■内船構成員

この「施策の方向」については新たな環境課題で考えていることであるが、環境問題に対する活動は横須賀でもかなり長く、色々な方が活動し、この環境教育・環境学習ネットワーク会議の構成員としてもこれまで何人もの方がいらした。

私自身も環境活動団体と関わりがあるが、環境活動を長く継続されている方々が、次の世代に活動を継続していくところに一つ課題があると思っていて、これまで活動を長く積み上げてきた方々が新しい世代の方々にバトンタッチするタイミングが取りづらいつている方々が多いと感じることがある。

このため、「継承する」「引き継いでいく」といったニュアンスが盛り込まれていくと、新しい時代というところを感じるのではないかと思った。

■天白座長

私自身も環境保全団体として活動していて、様々な団体の活動状況を拝見させていただいたが、どの団体も口を揃えて「高齢化」や「新しい人が入ってこない」と言っている。

そう思っている反面、新しい団体も生まれてきているので、既存の活動団体からは見えてこない階層で活動をされている人が多いのかもしれない。

今は基本的にSNSなどでのコミュニケーションが主体となっていて、今までの会議のようなコミュニティでの活動は見えづらい状況だと考えている。

「環境教育・環境学習マスタープラン」の「施策の方向」では「情報提供・普及啓発」や「連携・協働」が重視されているが、個人的には「情報収集と情報処理」が非常に大切だと思っている。

これは外への発信ではなく、我々や環境政策部へのブラッシュアップという方向で大事だと思っている。

環境政策部は守備範囲が広く情報処理が大変だと思うので、その辺りをいかにすっきり、かつ、新しいものを取り込みやすい状況に改革していくことがますます求められるのかと思う。

資料3の1「環境教育・環境学習の課題と現状把握」は、非常に時代に即して適切にできている。

新計画では既存の施策の再掲に留まらず、新しい時代を切り開く施策を打ち出してほしいし、勿論、環境問題は継続が要なので、今までのものをやめるのではなく、今までのものをブラッシュアップしていく形で刷新していくような「施策の方向」になると良い。

■事務局（松尾課長）

今年度と来年度の2年間で新計画を策定していくが、会議資料では骨子案をお示ししたが、これは叩き台的な意味合いがあり、皆様のご意見を聞きながら修正をしていく段階であり、例えば、今日特にご意見がないとしても、今後とも意見をいただきながら修正していくことも可能である。

新計画では、人、場、機会、資金などが循環してまた次の世代や活動に繋がるような仕組みができれば良いと思っている。

また、本日お示した骨子（案）へのご意見のほか、市で実施している小学校等へ指導者を派遣する「環境教育指導者等派遣事業」やこのネットワーク会議なども含めて、環境教育・環境学習に関する事業について具体的に「もっとこうしたら良い」「こんなことができないか」など、実際に現場を持っている、または活動している皆様のご意見をお聞きしたい。

■天白座長

お気付きの点があれば、随時事務局にご意見を伝えていただきたい。

また、皆さんの知見で、新計画の「基本目標5」の部分をもっと良くしていきたいと考えているので、今後ともご協力をお願いしたい。

■桐谷構成員

議論の中で「引き継いでいく」というキーワードがあったが、若い方々の中にも当然、環境に対して意識の高い方や実際に活動されている方はたくさんいると思うので、もっと

そのような方々との接点を増やしてもいいのではないかと思います。

例えば、この環境教育・環境学習ネットワーク会議の中に、環境に良いと言われることに取り組んでいる方にオブザーバーとして入ってもらおうとか、場合によってはスポット的に意見を伺うことをもっとも取り入れると良いと思う。

今はどちらかと言えば、年齢が高い人、小学生あるいは幼児向けを対象としているように見えるが、中間の年代の人に対してもこの活動の幅を広げていく取り組みも良いと思う。

■天白座長

横須賀市民は非常に環境問題に関心が高いと感じている。

これまでは、分野や地域で分かれて活動しているグループが多かったと思うが、私の知る限りでは、新しい生活様式ではないが環境に負荷をかけずに自分自身が生活をするという、まさに総合学習を生活で体験しているような活動の新しいコミュニティが多いと思う。

特に子育てグループではそれが非常に顕著に多いように思う。

コロナ禍で活動自粛のムードが強かったように思うが、私自身は逆に非常に忙しかった。

「どこにも行けない」「今まで定期的に行っていたことがなくなった」とのことで、「野山で自然体験をしたい」というニーズが非常に高まり、春先から初夏にかけて非常に活発に活動していた。

若い世代だからこそ、柔軟に新しい生活様式をすぐにものにし、柔軟に見方を変えたと感じた。

むしろ、そのような人たちから我々が学び取って、自分たちと新しい方々との調和を探っていくことも良いと思う。

そのような点で、この環境教育・環境学習ネットワーク会議の立ち位置やどのくらいアンテナを張っていくかが、これから大切になってくると思う。

■高橋構成員

新計画とSDGsとの関係をお聞きしたい。

資料3の1-(1)-②に「環境教育・ESD=SDGs」という表現が入っているが、「施策の方向」の例ではESDだけになっている。

ESDは少し分かりにくく感じるので、SDGsの考え方をもっと前面に出す考え方があると思う。

例えば、SDGsの14番の目標で「海の豊かさを守ろう」は、海洋都市というところで横須賀に対してもものすごく影響があると思う。

14番の具体的な方策で、プラスチックごみだけではなく海岸線の自然の環境を生かすなど、横須賀にとって非常に大きなことが入っているので、その辺りを取り入れることは大事だと思う。

15番の「陸の豊かさ」では里山などが大事になってくるので、その辺りを反映した進め方も今後検討していただきたい。

■天白座長

資料3の1-(1)-②についてご意見があったが、環境教育・ESDとSDGsのイコールが近すぎると思う。

環境教育・ESDの説明がそれ以降に続くような表現の仕方かと思うが、ESDもSD

G s もまだまだ普及していないと個人的には思っていて、簡単な用語の説明だけではすまないものなので、丁寧に説明をしながらいかにこの地域社会に落とし込むかが今回の新計画の要となる部分ではないかと思う。

「Sustainable Development」といって少し懐疑的なところがあるが、世界の潮流なので、そこに乗って検討していただきたいと思う。

SDG s の取り扱いについては、基本目標 5 の環境教育の分野でこれを司るということではなく、新計画全体に位置付けられるものである。

別紙「(仮称)横須賀市新環境基本計画」(骨子案)の10頁に「新計画の体系(案)」では、施策の柱の中にSDG s の考えが構築されるということである。

上位に基本目標が5つあり、その一つが環境教育・環境学習との位置付けになっている。

■事務局(松尾課長)

別紙11頁の「新計画の体系(案)」の施策の柱には「SDG s の位置付け」を記載しているが、SDG s と新計画の関係、また、進めていくべき方向性との結びつけができればと考えている。

いただいたご意見は、どのような形が分かりやすいかも含めて検討していきたい。

■吉田構成員

学校現場としての話をさせていただきたい。

資料3の1-(2)-①-ア 体験活動の捉え直しに「学びのプロセス⇒感性を働かせ、その中から見いだした意味や価値を他者に表現する」とあるが、小学校の新しい学習指導要領の中では、総合的な学習の時間が明確に位置付けられていて、これから先はそれを主体として色々な教科と横断化により学習をしていくことで、知識の思考・判断・表現などを成長させていくことをねらいとしている。

私は総合的な学習の時間研究会の一員であるが、小学校は成長段階にあり、何度も関わられるかどうか大きなキーワードになる。

テレビで起きていることを子どもたちが取り扱うのはすごく難しく、大人であれば「どうなっているのだろう」と思うが、子どもは目の前で実際に見て、触って、においを嗅いだりする中で課題を発見し、それに対して自分たちがどうアプローチをしていくかが大事になってくる。

一つのキーワードは、何度も関われるということである。

学びの場の提供に関しては、プログラムのような形になると5時間から10時間の扱いで学ぶことができるが、1回のみでは「確かにそういう問題があるのか」「気をつけないといけないね」とはなるが、果たしてそれが子どもたちの心に落ちたかどうかというと、少し難しいところがある。

やはりそのプログラムを通して、子どもたちが「自分たちの地域の中で、現状何が起きているのだろう」「自分たちの地域にはこういう課題がある」「こういう良さがあるのか」というところが大事になってくる。

学区の中にどのような自然や良さ、課題があるかについて、やはり教員側が知る必要があると思っているが、教材を研究する時間が取れていない現状である。

資料3の3-(2) 現行計画の施策の方向に、「環境教育・環境学習の機会の充実、環境学習プログラムの活用を促す」とあるが、可能であれば「あなたの学区にはこのような

自然がある」「このような素晴らしいところがあるけれども、このようなところが課題である」との情報が学校側に少しでもあると環境学習に対して先生たちが取り組みやすくなり、ハードルが1つ下がる。

また、「このようなプログラムを行うとこれからも活動が続けられそうである」などの紹介があると、子どもたちに対しての環境教育がより具体的にイメージできて取り組みやすいかと思う。

本来はそこを練るのが教員であり、甘えてしまっている部分もあるが、そのようなこともしていただけると、より子どもたちが自然に対して自分事として課題を捉え、生きた知識として各々が成長していったときに、もしかしたら団体には入らないかもしれないが、自ら環境に対しての担い手になっていくと思う。

■天白座長

今、学校の先生も私世代の人がだんだん増えてきた印象は受けている。

私の子どもの頃は、仙人のような博学のおじいさん先生が何人かいて、その先生に聞けば地域のことが全部分かるような状態だったが、今は学校の先生の世界でもそれはなかなか難しい状況だと思う。

ただ、横須賀市には幸いにして博物館があり、自然・人文博物館、馬堀自然教育園、天神島臨海自然教育園があるが、2つの自然教育園を持っている博物館は日本でも横須賀だけにしかないので、非常に恵まれた自治体である。

観音崎自然博物館もあるので専門的な知見もぜひ生かしていただきたいと思う。

また、今回「環境教育・環境学習マスタープラン」年次報告書にも記載していただいたが、市民協働モデル事業として「学区の自然を再発見、小学校向けの環境体験事業」を私と横須賀市と協働で行ったが、まさに吉田構成員のような課題を持たれている学校を対象として行った事業である。

自分の学区の中でどんな自然があり、どんな環境問題があるのか伝えるため、平均すると1校のクラス当たり4～5回は行っていると思う。

繰り返しのフィールドワークと座学を通じながら、その課題解決へ向けたワーキングをするようなプログラムを横須賀市では実施をしているものの、予算に限りがあり断っている学校も多い状況である。

是非、市はこの辺りの拡充をしていただき、将来的には市内の全小学校で必ず6年間に1回は自然保護のカリキュラムを受けて卒業するような状態になると良いと思っている。

自然に関係のない小学校はなく、特に東にある小学校は「自分のところに自然はない」と思われているが、そのようなことはないので、このようなメニューを積極的に活用していただきたいと思う。

活用いただかなくても先生たちが自分で進められる「身近な自然を知るマップ」を環境政策部で作成した。

これは小学校区ごとに自然環境の様子を地理情報システム（GIS）で落とし込んでいて、A3判1枚のものが46種類ある。

情報が少し古いかもしれないが、そうした良いものが環境政策部にはたくさんあるので、この会議にとどまらず学校で活用していただきたいと思う。

では、様々なご意見をいただいたので、今後の新計画策定の参考としていただきたい。

私は環境審議会の委員でもあるので、今回の環境教育・環境学習ネットワーク会議での

意見は積極的に環境審議会で発言していきたいと思っている。

また、環境審議会で発言してもらいたいことがあれば、個人的に連絡をいただいても構わない。他にご意見等はあるか。

■高橋構成員

パリ協定で一つの柱として適応策が出てきている。

この適応策はこれからとても大事になると思うが、環境学習との関係で何か出てくるところはあるのか。

■天白座長

適応策については、新計画の基本目標2で出てくると思うが、環境教育の分野はこの基本目標1から4までの全てに関わってくるので、それをどう分かりやすく伝えていくか、そして研究を進めていくかが教育の大事なところだと思う。

環境教育・環境学習を推進していきやすい姿勢のようなものをこの基本目標5で定めていただき、基本目標1から4までをいかにスムーズに普及啓発をしていくかが大切だと思っている。

■事務局（松尾課長）

新計画と並行して策定を進めている地球温暖化対策実行計画においても、適応策について検討して行きたいと考えている。

具体的な適応策はこれから検討していくが、市民への周知や意識の醸成なども大事な部分だと考えているので、環境教育・環境学習にどのような形で紐づけていくかについてもこれから検討していきたいと思っている。

■天白座長

では、事務局から「3 その他」について説明をお願いします。

◆環境教育・環境学習ネットワーク会議の書面会議の実施方法（案）について

[事務局からの説明]

資料4参照

■天白座長

ただ今の事務局からの説明についてご意見等はあるか。

特にご意見等ないので、書面会議の実施方法について了承する。

◆事務局から事務連絡

■事務局（大場主任）

事務連絡が4点ある。

1点目は、本日の議題について追加のご意見等があれば11月6（金）までに事務局へご連絡をいただきたい。

2点目は、「よこすかECO通信」12月号の掲載記事を募集しているので、記事等があれば事務局までお願いしたい。

3点目は、机上に配付した「令和3年度「よこすかECO通信」に対するご意見について」は、来年度に向けて第1面の内容や構成などの見直しを検討したいので、ご意見等があれば、12月25日（金）までに事務局へご連絡をいただきたい。

4点目は、次回の会議の開催は令和3年2月頃を予定しているため、改めて日程調整を行うのでよろしくお願ひしたい。

■天白座長

以上をもって、第32回環境教育・環境学習ネットワーク会議を終了する。